



2015.5.29
第157号

発行
福島県市町村教育連
北会津支部
北会津支部

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

ワクワク体験で学びの充実を



会津教育事務所
所長 星 克 一

小学生の頃、三月後半に庭の雪を砕いて広げるのが楽しみでした。既に土が見える所からはチューリップや水仙、絹サヤ、イチゴなどがしっかりと芽を出し勢いよく伸びようとしています。長く厳しい冬を過ごした後感じる喜びは格別でした。ウキウキワクワク、心が大きく揺さぶられる会津の春の訪れでした。

最近の私のワクワク体験は、四月末に郡山シティマラソンに出場したことです。スタート直前、一〇マイルへの挑戦で無事ゴールできるか不安を抱えなが

らも、自分の可能性を試す絶好の機会であり、普段味わうことのできない雰囲気浸っていました。

子どもたちはさらに敏感で、ワクワクする場面に多く出逢うはずです。修学旅行や宿泊体験、中体連大会等の対外試合、様々な学校行事、そして日々の授業。特に授業でのワクワク体験は、驚きへの出逢いと進歩を実感できた喜びでしょう。例えば、「あれっ、不思議だ、なぜだろう。」という知的好奇心、「すごい、自分もできるようにしたい。」という自己目標の設定、

「わかった。」という新たな発見や解決の喜び、「できた。」という達成感・成就感などです。これらは主体的な学びや豊かな感性、根気強さ等、生き抜く力の要素そのものです。

子どもたちが驚きと出逢い、進歩を実感できた喜びを味わう授業をつくるために、教師には相応の準備が必要であり、苦しみも味わうことと思います。そして、授業の筋道が見えたとき、授業実践をして子どもの変容が見えたとき、やはり教師もワクワクしていることと思います。

子どもが主体的に学び努力し続けるためには、教師のワクワクする体験が大きなエネルギーになっていることを改めて感じます。

「授業づくり」、本当にやりがいのある仕事です。子どもたちの確かな成長を目指した先生方の日々の実践を、これからも応援していきます。

平成二十七年 管理関係 重点事項

- 一 教育委員会・学校との連携を一層重視した人事管理の適正化
- 二 学校事故・不祥事等の未然防止

◎学校組織の充実・活性化による各学校の教育活動の充実

◎教職員の厳正な服務・勤務の確立
◎教職員一人一人の危機管理意識の高揚

◎震災後の復興、特色ある学校づくりにつながる教職員組織の充実や強化を図る人事管理及び人事事務の適正化に努める。

◎各学校における左記の取組を支援する。
・教職員の使命感や倫理観の高揚につながる研修等の充実
・保護者等の外部の方を含めた校内服務倫理委員会や通知の活用等の具体策の工夫

◎児童生徒の学力向上等で確実な成果を上げられるように、少人数教育による人事配置を生かした取組の工夫を支援する。

・全員参加による防火診断の確実な実施と改善等の安全管理の徹底

◎教職員の意欲や資質、指導力の一層の向上のために、勤務の適正化と新たな人事評価の効果的な実施を支援する。

※学校全体としての組織的・計画的、具体的な取組は、学校事故や不祥事等の未然防止につながるだけでなく、日々の教育活動の充実につながります。

◎各校の学校経営を支援するために、学校訪問及び各種会議の機会を活用する。

社会教育関係重点事項



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

【重点1】子どもたちの豊かな心をはぐくみます

- (1) 『子どもがふみだす 福島復興体験応援事業』
 - ア テーマ1「避難者へ元気を！！」小学生以下対象
 - イ テーマ2「一人一人が復興大使！！」中学生対象
 - ウ テーマ3「起業体験、ふくしまを発信！！」高校生対象
- (2) 『子どもの夢をはぐくむ子ども読書活動推進事業』
 - ア 読書活動支援者育成事業
 - 人材育成基礎研修 7月6日(月) 会津美里町新鶴公民館
 - ステップアップ研修 9月17日(木)、18日(金) 下郷町
 - イ 「子ども読書活動推進計画」 域内全市町村策定見直し
- (3) 『子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト』
 - ア 親子ふれあい読書フェスティバル「～本はともだち～」
 - 11月3日(火) 会津稽古堂

【重点2】地域全体で子どもたちを教える取組を支援します

- (1) 『学校・家庭・地域連携サポート事業』
 - ア 学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組を見学し、成果等について協議する。(西会津町、会津坂下町)
- (2) 『学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業』
 - ア 放課後支援事業(会津若松市、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町)
 - イ 学校支援事業(北塩原村、西会津町、柳津町、三島町)
 - ウ 地域支援推進事業(会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、三島町、金山町、昭和村)
- (3) 『地域における防災力向上支援事業』
 - ア 地域防災力向上支援プログラム(会津で2回開催)

○市町村における地域防災力の向上を図る。

第1回 8月24日(月)、第2回 9月25日(金) 会津大学

【重点3】家庭における教育を支援します

- (1) 『地域でつながる家庭教育応援事業』
 - ア 「家庭教育応援プロジェクト」
 - 地域家庭教育推進会津地区ブロック会議(6月・1月) 地域の課題について、郡市PTAと連携しながら家庭における実践につなげる。
 - 親子の学び応援講座
 - モデルPTAを設置し、親の学び・家庭での実践活動を支援する。(西会津町)
 - 家庭教育応援企業推進活動
 - 家庭教育の推進に取り組む企業を募集し、企業と連携し、地域の家庭教育を推進する。
 - イ 「家庭教育応援リーダー育成事業」
 - 家庭教育支援者スキルアップセミナー
 - 7月25日(土) ユースピアゆがわ

(2) 『十七字のふれあい事業』

子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、自然・社会体験活動などの共通体験を通して、お互いが感じた思いや願い等を作品にする。(応募期間：7～9月)

【重点4】自然に親しみ自然を尊重する心をはぐくみます

- (1) 『ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業』
 - 郷土の良さを伝え合い、発信する交流活動や自然体験活動を行う機会を提供する。
 - ア 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業
 - イ 社会教育団体自然体験活動支援事業
 - ウ ふくしまっ子体験活動応援補助事業
 - エ ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

平成27年度指導関係の重点等

今年度の最重点項目は次の4項目です。詳しくは、「会津教育事務所 経営・運営ビジョン」をご覧ください。

1 子どもたちの豊かなこころの育成

- 指導體制の充実及び道徳における多様な指導法の工夫
 - ・道徳教育全体計画「別葉」を活用した、計画的・組織的な指導
 - ・「ふくしま道徳資料集」の活用(今年度、第3集「郷土愛・ふくしまの未来へ」が配付されます。)
- 不登校防止に向けた組織的な取組等の推進
 - ・小中連携を図りながら児童生徒の自己有用感を高める取組の推進(不登校児童生徒数「前年度比10パーセント減」)

2 子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」の育成

- 学力向上グランドデザインの実践と改善
 - ・ショートスパン(定着確認シート等)やロングスパン(県学力検査・全国学力学習状況調査等)のPDCAサイクルの確立
 - ・共通実践事項を明確にした組織的な取組

○ 「わかる、できる」授業の実践

- ・実践事例集「今、目指したい授業」やHP資料「教科等の部屋」・「児童生徒の『できた！わかった！』のために」の活用

3 子どもたちの健やかな体の育成

- 域内体力・運動能力検討委員会による『提言』に基づく授業や体育的活動の充実
 - ・パンフレット「会津の子どもたちの健やかな成長を願って」を活用した体力向上・肥満防止(「提言」による実践小中とも2.4以上)

4 「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進

- インクルーシブ教育システムの構築
 - ・「個別の教育支援計画」の活用
- 幼・小・中・高の特別支援教育の充実
 - ・ケース会議や校内研修の充実

※ 放射線等に関する指導資料第4版とDVD、防災教育指導資料第2版が発行されました。

ぜひご活用ください。



元気であったか

北塩原村教育委員会教育長
鈴木 力雄

北塩原村で初めて感じた素朴な疑問。

本村におけるまちづくり計画のキャッチコピー『元気であったか・こぞって創るいい村北塩原』のあったかの意味。今風の「あったかいだから♪」のあったかなのか、「元気でいらったがよ」のあったかなのか。一笑に付されればそれまでのこと。一見ムダに思える疑問や作業が真理追究のヒントとなるもの。因みにこの顛末、あったかは温かいを意図しているものだろうな。

さて、『まちづくりは人づくり』よく耳にする言葉だが、併せて必ず取り上げられるのが教育への期待とそのあり方『国家百年の計は教育にあり』の姿である。

三十年ほど前のこと、

教育とは、
磐梯山に降り積もる雪の如きものと
猪苗代湖に降り沈む雪の如きものがある

の言葉に出会う。

磐梯山に降り積もる雪は、山肌を純白に染め、その美しさ、雄々しさに誰もが魅了される。一方猪苗代湖に降り沈む雪は、ひたすら湖面を撫でながら染みていく。そして共に大地を潤し、自然の恵み、人々の生きる糧となる。

地公法の改正により本格実施を次年度に控える人事評価システムは、湖に降る雪のように見えにくい気づきにくい姿をしっかりと見極める評価観が求められている。本制度が公務員としての誇りと意欲につながるものと期待したい。そのためには、目配り気配りに溢れた風通しのよい人間関係の醸成が必要不可欠である。「元気であったか」「大丈夫がよ」「なじょしたよ」の心温まる一言が人を育て、まちづくり・ひとづくりに活力をもたらすものと信じている。「元気であったか・こぞって創るいい人事評価システム」

我がまちからの情報発信

自分たちの町を知る「地区探検」

三島町では、三島小児童を対象に、「地区探検」という授業を行っています。地域の歴史・文化を熟知している住民の方に講師を依頼し、地区内を歩いて、自分たちの住む地域への理解と関心を深めようとするものです。

今年度は4月30日に、複式学級となっている3年生・4年生の授業において、今年度最初の「地区探検」を西方地区で行いました。同地区に詳しい文化財専門委員の案内により地区内を巡り、古くからの言い伝えが残るお堂や、土器などが出土している遺跡のほか、集落を形成している道や家並みの歴史などを学びました。普段は通り過ぎている身近な場所に、歴史が詰まっていることを感じてくれたことと思います。

「地区探検」のほか、当町は会津桐の産地であることから「桐の学習」、さらに田植えから稲刈り、脱穀等を体験する「田んぼの学校」、郷土料理を習う「おばあちゃんの味」などを継続して実施しています。これらの授業の先生は、昔からの知恵や技を持つ地域の方々です。事業実施に当たっては、学校支援コーディネーターが地域住民と学校のつなぎ役となって、授業内容等について相談・

三島町教育委員会

調整を行っています。

当町の人口は約1700人、高齢化率は50%を超え、唯一の小学校である三島小の児童数は47人と極めて小規模となっています。この状況の中で、充実した学校教育を推進するためには、教職員だけに頼らず、地域住民、学校、行政が連携して、子ども教育を支えていくことが必要です。地域に根差した教育活動が、必ず子どもたちの心に宿り、健やかな成長へと導くと信じています。さらに地域の方々にとっても、学びや楽しみとなるように、今後に向けて事業内容を発展させていきたいと思っています。



西方地区の山城跡を訪れた三島小の児童たち

《第6次福島県総合教育計画 基本理念：“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり》

■ 知・徳・体の豊かな心の育成—1—

【子どもたちの豊かな心の育成—1—】

- ◎ 指導体制の充実及び道徳における多様な指導方法の工夫
(方策) 学校訪問や地区別研修会等での具体的な指導
・HPによる多様な指導のポイントや実践例の紹介
- (目標) 道徳教育全体計画別葉等を活用した共通実践
小中とも2.3以上
- ◎ 不登校防止に向けた組織的な取組等の推進
(方策) 学校訪問等における自己有用感を高めるための授業づくりや集団づくりへの指導助言
- (目標) 不登校ゼロを目指し自己有用感を高める授業づくりや集団づくりを実践する学校 小中とも2.5以上
(不登校児童生徒 前年度比10%減)

【「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進】

- ◎ 地域におけるインクルージョン教育システムの構築と理解啓発
(方策) 作成した「個別的教育支援計画」の活用に関する指導助言
- (目標) 指導に一貫性・系統性のある支援体制による指導の充実 (『個別的教育支援計画』の活用)
小中とも2.5以上
- ◎ 幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実
(方策) 小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実
校内研修への支援
- (目標) 教員の専門性や指導力向上を図るための校内研修の工夫 (校内研修やケース会議等の実施)
小中とも2.5以上

■ 子どもたちの健やかな体の育成

【子どもたちの健やかな体の育成】

- ◎ 学力向上プログラムやインセンティブの全職員の共通理解に基づいた確実な実践と改善
(方策) 全職員の共通理解と共通実践事項の確実な実践と改善に関する指導助言
・シヨートスパン(定着確認シート)とロングスパン(全国・県学力調査)の評価計画によるPDCAサイクルの確立状況の確認
- (目標) 学力向上プログラムやインセンティブを全職員で共通理解する学校
小中とも2.5以上
- ◎ 共通実践事項の確実な実践と改善を実現する学校
(方策) 「わかろう！わかった！」のために』に基づいた実践についての具体的な指導助言
・HP指導資料集「児童生徒の「できた！わかった！」のために」に基づいた実践についての具体的な指導助言
- (目標) 児童生徒の「できた！わかった！」のために』等を活用し、授業を改善する学校 小中とも2.4以上
- ◎ 児童教育のよさを生かして指導体制や指導方法を工夫改善し、個に応じた指導の充実を努める学校
(方策) 確かな学力の向上を支える基礎づくりとしての学習習慣・生活習慣の確立
授業と家庭学習のサイクルの確立状況の確認
- (目標) 授業と家庭学習のつながりを明確にした実践 小中とも2.5以上

【望ましい勤労観・職業観の育成】

- ◎ 教育活動全体を通してキャリア教育の推進
(方策) 学校訪問におけるキャリア教育推進に関する具体的な指導
・キャリア教育連携事業に係る広報活動の充実
- ◎ 外国語によるコミュニケーション能力(の素地)の育成
(方策) 学習到達目標達成を視点とした授業参観及び指導助言
・HPの内容充実

【高度情報化社会を主体的に生きていく力の育成】

- ◎ 情報活用能力の育成
(方策) 校内研修会等への支援の一層の充実
- ◎ 国際化の進展に対応できる人づくり
(方策) 校内研修会等への支援の一層の充実

■ 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

【子どもたちの豊かな心の育成—2—】

- ◎ 子どもの復興体験活動の支援
(方策) ふくしま復興体験応援事業の推進
- ◎ 読書活動の推進
(方策) 子どもの読書活動を支援するボランティアの養成

- ◎ 学校・家庭・地域連携への支援
(方策) 地域全体で教育活動を支援するためのコーディネートやボランティアの育成
- ◎ 学びを通じた地域コミュニティ再生への支援
(方策) 地域の課題に対しての支援の充実
- ◎ 地域における防災力向上への支援
(方策) 社会教育関係者等を支援するプログラムの実施

- ◎ 自然体験・交流活動の支援
(方策) 自然体験・交流活動を行う機会を提供
- ◎ 低炭素・循環型社会に対応した環境教育の推進
(方策) 各学校の取組(「福島議定書」等)の積極的な紹介

- ◎ 地域でつながる家庭教育の広げ
(方策) 家庭教育について保護者が学ぶ機会充実のため
の支援(親子の学び応援講座等)
- ◎ 地域家庭教育推進会津プロジェクト会議の「メディアアット上手」に付き合う子どもを育てようという啓発の提言」に基づきよりよい生活習慣づくりの啓発
- ◎ 「十七字のおれあい」事業の推進
(方策) HPや広報誌、各種研修会における周知及び啓発

■ 豊かな教育環境の形成

【教員の資質の向上】

- ◎ 教員研修等の充実
(方策) 体験的な研修や少人数グループでの協議等の工夫
- ◎ 教職員の服務倫理の確立
(方策) 所長・管理訪問時における各校の実践への指導助言、効果的な取組の紹介
- (目標) 学校事故、教職員事故及び不祥事絶無
- ◎ 新人人事評価制度の推進
(方策) 円滑な導入に向けた研修会の開催と所長・管理訪問等での指導助言

【安全で安心できる学習環境の整備】

- ◎ 児童生徒の安全確保
(方策) 学校訪問等での地域や関係機関と協力した「危険等発生時対応要領」に基づく安全確保の実施や防災教育の推進に向けた指導助言
- (目標) 「危険等発生時対応要領」に基づく安全確保実施校及び防災教育実施校100%。

【教員が子どもと向き合える環境の整備】

- ◎ 教員の勤務の適正化と負担軽減の推進
(方策) 教職員の心身の健康保持
- ◎ 教職員の心身の健康保持
(方策) 超過勤務削減とメンタルヘルズケア対策の推進

【透明性が高い、開かれた教育の推進】

- ◎ 学校経営能力の向上
(方策) 校長会議・教頭会議などにおけるより実践的な指導
- ◎ 各種事業に係る適正執行の確保
(方策) 実効的な各種教育活動を支える予算措置
適正な事務執行に資する指導・助言
計画的な予算配分や事務の共同連携・事務指導会等を通じた実践的指導
(目標) 給与等事務担当者会議の実施、事務指導会対象校30校

【家庭における教育の推進】

- ◎ 地域でつながる家庭教育の広げ
(方策) 家庭教育について保護者が学ぶ機会充実のため
の支援(親子の学び応援講座等)
- ◎ 地域家庭教育推進会津プロジェクト会議の「メディアアット上手」に付き合う子どもを育てようという啓発の提言」に基づきよりよい生活習慣づくりの啓発
- ◎ 「十七字のおれあい」事業の推進
(方策) HPや広報誌、各種研修会における周知及び啓発

各市町村教育委員会の施策

各学校の経営・運営ビジョン

基本目標

- ① 域内の実情を踏まえた県教育委員会施策の推進及び各市町村・各学校の適正かつ実効的な教育活動充実のための支援
- ② 視野を広く、見通しを確かに、志を高くもって域内の教育を考える。
- ③ 成果に結び付く意図的・計画的・組織的・継続的な支援を行う。
- ④ 各種事業の適正執行等に資するため、域内の教育関係者・関係機関との連携を強化・促進する。

会津教育事務所